



生活やものづくりの学びNetニュース

巻頭言

「生活やものづくりの学びネットワーク」の 10 年とこれから

世話人代表 / 宇都宮大学教授 赤塚 朋子

新型コロナウイルスの感染者は、全国的に拡大を続けています。こうした状況下で、「新しい生活様式」が求められるなか、今こそ、「生活やものづくりの学び」が求められていることを痛感しています。そこで、2020 年 9 月 27 日(日)に開催予定の公開フォーラムのテーマを「『新しい生活様式』を意識した授業づくりーコロナ禍の中の子どもと学校」と設定し、オンラインによる基調報告とグループディスカッションを試みることにしました。教育現場での困難を克服しながら、新しい学びのあり方を模索している全国の教員とともに、「生活やものづくりの学び」について語り合う場を提供し、ネットワークのよさを発揮するきっかけをつくりたいと思います。奮ってご参加ください。

総会につきましては、今号の掲載をもって書面審議とさせていただきます。ご意見等がありましたら、8 月 31 日までに事務局にメールをお願いします。ご意見がない場合はご承認いただいたものとみなします。よろしくお願いたします。また、例年の実行委員会も、今号に各地の活動報告を掲載することで、委員会の開催にかえさせていただきます。

「生活やものづくりの学びネットワーク」では、2010 年 9 月 19 日の設立総会から 10 年を迎え、昨年、第 10

回の総会を終えました。2020 年度の総会において、節目である 10 年を祝い、新たな飛躍に向けて企画していたところでした。しかし、3 密を避け、会って互いにこれまでを振り返る集会がままなりません。そこで、せめて紙面上ではありますが、この 10 年を振り返り、シンポジウムや春の学習会の講演テーマをあげてみます(次ページの表参照)。

この 10 年は、東日本大震災や豪雨といった自然災害や新型コロナウイルス感染症拡大など、生命と生活に関わる課題が山積してきました。こうした時代だからこそ、課題解決力を育む「生活やものづくりの学び」に取り組んできたネットワークの資産を次に繋げる新たな一步を皆さんと一緒に踏み出したいと思います。

中央教育審議会に「新しい時代の初等中等教育の在り方について」が諮問され、論点には「小学校における教科担任制の導入」、「教育職員免許法の在り方も含め、義務教育 9 年間を見通した養成、採用、研修、免許制度、人事配置の在り方」が取り上げられています。常々「生活やものづくりの学びネットワーク」が要望してきた内容が議論されますので、目が離せません。ロビー活動を進めていくところです。ご協力をお願いいたします。

Contents

巻頭言	1
総会時の企画と春の学習会の講演テーマ一覧	2
2019 年度各地区の活動報告	3
生活やものづくりの学びネットワーク 第 11 回 (2020 年) 総会資料	7
事務局からのお知らせ	13
「2020 年度公開フォーラム」のお知らせ	14

総会時の企画と春の学習会のテーマ一覧

年月日	テーマ
2010年9月19日	現代の子どもに必要な学びとは
2011年3月26日	(東日本大震災で中止)
2011年9月25日	これからの農業と私たちの生活
2012年3月31日	原発事故をどう受け止め、学びの場につなげるのか
2012年9月30日	生活やものづくりを大切にする社会へむけて
2013年3月23日	大仏拝観とご講話「東大寺の修二会」
2013年9月29日	人間がこだわってきたもの
2014年3月29日	授業実践から学び、考える
2014年9月28日	ていねいに暮らす…その思想と姿勢
2015年3月21日	綿から糸を紡ぐ～紡績の道具と機械の話・糸紡ぎ体験～
2015年9月27日	生活やものづくりの学びを通してどのような資質・能力を育てるか
2016年3月27日	ICTを活用した授業事例
2016年9月25日	実物、実感、認識—メディア／教育とジェンダーの研究を踏まえて
2017年9月24日	学習指導要領と「家庭」、「技術・家庭」
2018年3月24日	現代っ子不器用の証明
2018年9月23日	新学習指導要領とこれからの高校「家庭」の展開
2019年3月23日	18歳成年消費者を取り巻く取引社会の様相—消費者問題、消費者法の視点から—
2019年9月23日	豊かな感性を育む「生活やものづくり」の学び
2020年3月29日	(新型コロナウイルス感染症拡大防止で中止)
2020年9月27日	「新しい生活様式」を意識した授業づくり—コロナ禍の中の子どもと学校 (予定)



2019 年度各地区の活動報告

1. 山形県の活動報告

【研修会概要】

日 時：12月22日（日）13：00～16：00

会 場：山形大学地域教育文化学部1号館3階

研修内容：1)卒業研究ポスターセッション

2)講演「味わい教育の意義と効果」

講師 大村恵利氏（横浜国立大学教育学部 専門教諭 食育担当）

今回は一般22名、大学生9名が参加しました。家庭科の他に栄養教諭の先生方や山形市消費者連合会からのご参加もいただき、講演後の交流も活発に行われました。ネットワークへの加入希望者もあり、大変有意義な研修会となりました。

まず、前半の食環境デザインコース4年生の卒業研究ポスターセッションは、一般参加の皆様からも関心を持ってお聞きいただきました。質疑応答が活発に行われ学生たちの励みになりました。

後半の講演&ワークショップは、講師に大村恵利先生（横浜国立大学 教育学部 専門教諭 食育担当）をお迎えしました。大村先生は、これまで特別支援学校等で「味わい教育」を多数実践されていて、講演では子どもたちが自分の様々な感覚を使って味わう活動の意義や効果等についてお聞きしました。ワークショップでは実際にアーモンドや山形県の在来作物の一つである温海かぶ、数種の蜂蜜を試食しました。中でもかぶに蜂蜜をつけて食べることに驚きながら、体験したことのない味わいに意識を集中しました。それらを味わった感想をグループで

話し合い、互いに共感したり他者の感想を受け止めたりすることを体験しました。「好きな香りとその理由」をテーマに自己紹介し合う活動も大変盛り上がりました。大村先生から味わい教育の具体的な方法を教えていただきながら行った演習は、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

【参加者の感想紹介】

・自分の味覚に向き合えた貴重な時間になりました。食育として新しいアプローチの仕方を教えてもらい、ぜひ学校でも実践したいと思いました。

・味わい教育を初めて知ることができました。家庭科の授業としてはもちろんのこと、人として成長するという意味で大切なことだと思うことができました。

・味わい教育とても良かったです。言葉の大切さ痛感します。

・味わい教育の魅力を改めて感じる機会となりました。実践もあり、とても分かりやすかったです。

・カブに蜂蜜を付けて食べるという考えがなかったので、新しい食べ方を発見できた。自分も園児と関わるときはなるべく否定しないように気を付けているが「ほめない」理由を聞いてその通りだと思ったし、今後その点に気を付けていこうと思う。

（文責：山形大学 石垣和恵）

2. 東京都の活動報告

本実行委員会では、2019年度内に6回実行委員会を開催し、例年の江戸川区小学校すくすくスクール（児童館と学童クラブの機能を兼ね備えたような江戸川区の施設）2か所での夏と冬の講座を開催した。また、今年度は、秋の学習交流会として会員の手芸実践家であり研究者の方の講演会を実施した。その際に活動補助費を有効に利用させていただいた。お礼を申し上げるとともに今後も継続した支援をお願いしたい。

A 活動報告

I 縫物、編物講座の開催

1 中小岩小学校すくすくスクールでの活動

○ 2019年9月21日（土）11:00～16:30

・内容—「巾着袋」づくりの指導

・参加者—2年1名、3年12名、4年4名、5年1名（男）、6年2名 計20名

・当日講師—東京実行委員5名、会員2名、短大生3名 計10名

○ 2019年12月26日（木）11:00～16:30

・内容—編物で「フルーツのコースター」づくりの指導

・参加者—3年5名、4年3名、6年3名 計11名

・当日講師—東京実行委員5名、会員1名、その他2名、短大生1名 計9名

2 西小岩小学校すくすくスクールでの活動

○ 2019年7月27日（土）11:00～16:30

- ・参加者—3年7名、4年2名、5年4名
計13名
- ・当日講師—東京実行委員5名、会員2名、その他
1名 計8名
- 2019年12月27日（金）11:00～16:30
- ・内容—編物で「フルーツのコースター」づくりの指導
- ・参加者—3年7名、4年4名、5年2名
計13名
- ・当日講師—東京実行委員4名、会員2名、短大生
1名 計7名



3 成果

どの回においても参加児童は、一生懸命製作をしようとする楽しさと丁寧な指導に満足していた。事後アンケートによると児童は大部分が自分の意志で参加していた。縫物の教材についてはかなり身近な巾着袋だったので興味がわいたようだ。また、自分の好きな布、紐、ロープエンド、ワッペンを選んで楽しそうであった。

編物は今まで行ったことのない児童が大部分であったので、かなりハードルの高い内容ではあったが、約2時間で努力して仕上げた。家庭科を学習していない小学4年生以下でも興味・関心・意欲があれば、製作できるとの実感を強くした。

II 秋の学習交流会の開催

1 スケジュール

- ・日時：2019年11月30日（土）13:45～16:30
- ・場所：東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター 東京5階 509AB
- ・内容：講演会 「江藤春代の編物普及活動—明治～昭和期における編物の変遷—」
- 講師：（一社）彩レース資料室 代表 北川ケイ 氏

この講演は北川氏の放送大学大学院人文コース・修士論文に基づく内容であり、概要は以下の通りであった。

「江藤春代は日本の編物の歴史の中で極めて重要な存在であり、それを日本の女性史、社会史、産業史、広く歴史を背景にしてまとめたものである。欧米にとって編物は教養の手芸であったが、日本にとっては生きるための技術であった。手づくりの大切さを再確認してほしいと切に願っている。」

：情報交換会

2 成果

講演参加者は教員、手芸講師、編物業界の方等24名であった。講演は、たくさんの古書、古道具、再現作品等を利用し、大変わかりやすい興味深いものであった。情報交換会では、12名の参加で2グループに分かれて話し合い、子ども達に直接手を使って創る喜びを体験させることが必要であり、今後は本団体が協力したり家庭科の授業の中で学べることを望ましいのではないかとの意見が出て終了した。

B 課題

縫物、編物講座については、これらの成果を今後どのように「生活やものづくりの学びネットワーク」の活動目的に組み込んで地域の方にアピールするとともに家庭科教育の充実につなげていくかである。

（文責：愛国学園短期大学 亀井佑子）

3. 静岡県の活動報告

Shizuoka 家庭科研究会として、2019年11月9日(土)に、静岡大学教育学部附属静岡中学校の被服実習室にて、学習交流会を開催しました。参加者は、県内の小・中・高等学校教員8名、大学生6名、大学教員2名の計16名でした。学習交流会は、ものづくりワークショップと授業アイデアトークカフェの2部構成にしました。ものづくりワークショップでは、佐貫浩子先生(附属島田中学校)に、手ぬぐいを用いた被服実習教材を紹介していただき、作品例から1つを選んで製作をしました。授業アイデアトークカフェでは、堀池美衣先生(附属静岡中学校)に、静岡おでんを題材にした授業実践を紹介していただきました。生徒の調べ学習のレポート資料を用いて、模擬授業を体験しました。その後、明日の授業につながるアイデアを得ることを意図して、グループで意見交換を行いました。参加者から、「時間があっという間に過ぎ、とても楽しく学ばせていただきました。今年度、家庭科の研修機会があり、家庭科の奥深さや魅力を感じています。そして、日々の授業を振り返り、反省するばかりです。もっと勉強したいと思います。紹介していただいた実践も、身近なものを活用し、子どもたちが興味をもって取り組める素敵な実践だと思いました。グループの先生方と交流し、他校種の授業のお話も聞けました。小学校の段階で身につけることが身につけられるように、授業に取り組みたいと思いました。」「参加して、本当によかったなと思いました。貴重な実践発表はとてもためになりました。家庭科のものづくりは楽しいですね。生徒の立場になって夢中に作業をしました。家庭科の魅力を、今回のような形でやっていただけると本当に勉強になります。次回もぜひ参加したいです。」「普

段は高校の教員のための研修が多い中、中学校でどのような授業をどのようなねらいで行っているのかを知ることができ、また丁寧な教材作りや工夫された授業展開に感銘を受けました。小→中→高のつながり、発展を考えさせられました。今後もこのような機会をいただくと嬉しいです。お茶とお菓子、グループワーク、実習など、話しやすい雰囲気の中、充実した楽しい時間でした。」「生徒たちがどのような学びを経て、高校に入学してくるのがよくわかり、この子たちを大切に社会に送り出さなくてはいけないという使命感を得ました。学びの深さ、広がり、教師の“ねらい”の先にどのような“願い”があるかだと思います。これからも参加させていただき、私自身、どのような“願い”を持って教育していくのか考えさせていただきたいです。」などの感想が寄せられました。

(文責：小清水貴子)



4. 長野県の活動報告

2019年10月の台風19号の影響で河川が氾濫し、近くの数校の保育園・小中学校では何もかもが泥に浸かり、養護・教育機能を全て失う事態となりましたが、全国より多くの支援をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

2020年2月16日(日)信州大学教育学部にて、信州大の福田が「Darning【繕い】ー靴下などに新たな命を吹き込む喜びー」というテーマで研修会を開催いたしました。家庭科教育や手仕事に関心を持つ7名(高校教員3名、中学教員1名、一般市民2名、院生1名)が県内各地よ

り集まりました。獣毛繊維の種類や特徴、編物や靴下の基礎的事項を解説し、Darning【繕い】の製作体験を通して、ニット製品の補修に関する教材開発へ関心・意欲を高めることができました。参加者は持参したニット製品と表現したいDarning【繕い】デザインを考えながら創意工夫し、多種多様な糸や繊維(わた)の中から自由にたて糸とよこ糸その他を選び、個性溢れる作品を製作しました。感想の一例を紹介し、当日の様子をご報告させていただきます。

虫食いのため、(ストールを) 暫く使用する気持ちが失せておりましたが、新しい物に生まれ変わった物を再利用してみたい気持ちに変化しました。こうでなくては・・・という発想の転換になりました。とても良い体験をさせていただきました。



もう片方(の靴下)は家でやってみたいと思っています。(軍手などニットの)伸縮性をどう止めて固定し、ほつれが広がらないように考えたいです。上手下手を気にせずのできるの良い(教材)と思います。物の命を尽くして生きる良い知恵と(いう)言葉を教えていただきました。いろいろ繕いにもアクセントにも使えるので、久しく(久しぶりに)勉強になりました。

人間の暮らしに必要なものを大切に使う楽しさとその用と美の素晴らしさを伝えるための工夫について考える良い機会となりました。

「衣生活」はもちろん「消費生活・環境」「総合的な学習の時間」等と横断的な実践に教材をブラッシュアップして生かしていただけるものと期待しております。研修の機会を与えて下さった本会に感謝申し上げます。皆様とともに、コロナ感染の終息を祈るばかりです。
(文責： 福田典子)



5. 大分県の活動報告

実行委員会・大分大学被服学研究室共催 学習会

「臙脂」を題材とした家庭科の授業紹介

日時：2019年8月6日(火) 18:00~19:30

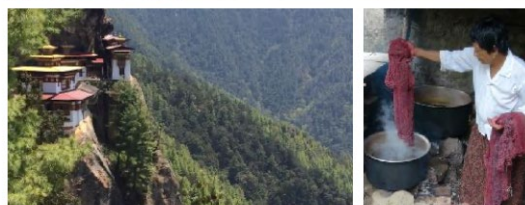
場所：お茶の水女子大学国際交流留学生プラザ同窓会コモンズ共用室A(4階)

内容：

夏、共立女子大学で開催された家政学会のセミナーの前日に大分県実行委員会と大分大学被服学研究室共催の学習会を東京で開催しました。

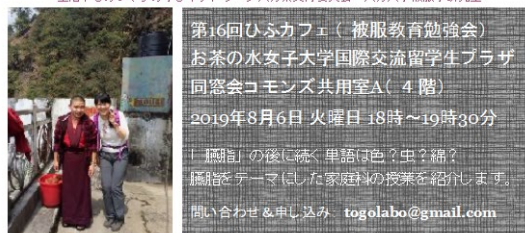
2019年5月19日に早稲田大学で日本ブータン学会第3回大会が開催され、実行委員の都甲が日本ブータン学会で発表した「ブータン王国のラックカイガラムシを題材とした高等学校家庭科の授業実践-ラック染色布、染色動画と実験を教材として-」の内容について報告しました。www.bhutanstudies.org/conference/3rd/

この授業ではブータン産のスティックラックを使用して多織交織布(マルチファイバーテストクロス)を染色する実験をしました。この実験は、染色材料店(インターネット)で購入可能なラックダイパウダーで代用可能であることをお示ししました。菓子やかまぼこなどの加工食品の着色料としても使用されているラック色素で様々な種類の繊維を染色する演示実験教材を提案しました。参加者のみなさまとはこの実験を取り入れた家庭科の授業の可能性について意見交換をしました。



えんじ 「臙脂」を題材とした 家庭科の授業紹介

生活やものづくりの学びネットワーク大分県実行委員会・大分大学被服学研究室



部屋の使用料、実行委員の旅費等は大分大学短期プロジェクトの予算を使用しました。参加人数は17名、運営側は実行委員1名(台風接近で飛行機キャンセル、1名欠席)でした。3月にも学習会を計画していましたが、感染症の影響で開催できませんでした。次年度の学習会も、感染症の動向を踏まえて計画する予定です。

(文責：実行委員 都甲 由紀子)

【報告事項】

I 2019年度活動報告(2019年4月1日~2020年3月31日)

1. ネットワーク参加人員数

2020年3月31日現在 個人会員381名 団体会員 18団体

2. 交流会の開催

全国交流会

日時:2019年9月23日(月・祝)13:00~15:20

場所:キャンパス・イノベーションセンター東京

テーマ:豊かな感性を育む「生活やものづくり」の学び

シンポジスト

- ・佐々木和也氏(宇都宮大学教育学部教授)
- ・佐藤雅子氏(千葉県成田市立公津の杜小学校主幹教諭)
- ・柳川奈奈氏(有限会社設計工房顕塾主宰、福井大学教育学部住居学担当非常勤講師)

コーディネーター

- ・野中美津枝氏(茨城大学教育学部教授)

春の学習交流会

2020年3月29日(日)に開催予定としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて中止。

3. ロビー活動

2019年7月22日(月)世話人代表 赤塚朋子と世話人副代表 河野公子の2名で、教科調査官を窓口にして文部科学省を訪問した。初等中等教育局長をはじめ同教育課程課長、同主任学校教育官、同学校教育官、同教育課程課総括係長、国立教育政策研究所所長へのご挨拶とともに、高等学校家庭科の男女必修の成果について、日本家庭科教育学会「家庭科未来プロジェクト」の調査結果掲載の「日本家庭科教育学会誌」の別刷りと「未来の生活をつくる 家庭科で育む生活リテラシー」を持参し、特に高等学校家庭科の男女必修の意義について理解を図った。併せて、2019年10月9日に開催された、日経 xTECH EXPO 2019 の特別講演「HomeX で実現する 次の100年の暮らし」でのパナソニック ビジネスイノベーション本部長の馬場 渉氏「令和の学問で最も重要なのは『家庭科』」の抜粋資料を持参した。

4. 会員の交流および宣伝活動

- ① ニュース発行 第17号(2019年7月)、第18号(2020年2月)が発行された。
- ② 生活やものづくりの学びネットワークの新版パンフレットが完成。(2019年4月発行)。会員全員に送付。要望のあった団体、組織等にも配布した。

- ③ 各県（支部）での活動が行われた。
- ④ Freemlのサービスの終了により、メーリングリストの管理を有料のXREA Mail& Backupに移行した。メーリングリストにより情報発信や意見交換が行われた。
- ⑤ Yahoo ジオシティーズのサービス終了により、ホームページの管理をXREAに移行し、適宜管理した。

5. 各会議の開催

(1) 総会

日時：2019年9月23日（月）15：30～16：00

場所：キャンパス・イノベーションセンター東京

- 内容
- ・2018年度活動報告
 - ・2018年度決算報告
 - ・2019年度活動方針
 - ・2019年度予算案
 - ・2019年度運営体制
 - ・会則の改正

参加者 40名

(2) 実行委員会

日時：2019年9月23日（日）11：30～12：30

場所：キャンパス・イノベーションセンター東京 5階509A・B

- 議題
1. 各県の学習交流会実施報告ならびに実施計画
 2. 学習交流会開催助成金の支給について
 3. 意見交換

(3) 世話人会

- | | | | |
|-----|----------------|--------|---------------------|
| 第1回 | 2019年5月18日(土) | 10:30～ | キャンパス・イノベーションセンター東京 |
| 第2回 | 2019年8月31日(土) | 10:30～ | キャンパス・イノベーションセンター東京 |
| 第3回 | 2019年9月23日(月) | 10:30～ | キャンパス・イノベーションセンター東京 |
| 第4回 | 2019年9月23日(月) | 16:10～ | キャンパス・イノベーションセンター東京 |
| 第5回 | 2019年11月10日(日) | 10:00～ | キャンパス・イノベーションセンター東京 |
| 第6回 | 2020年1月25日(土) | 10:00～ | キャンパス・イノベーションセンター東京 |
| 第7回 | 2020年3月29日(日) | | コロナ感染拡大防止のため、中止 |

Ⅱ 2019年度 決算報告 (2019.4.1~2020.3.31)

生活やものづくりの学びネットワーク 2019年度決算報告 2019.4.1~2020.3.31)			
収入の部			(単位円)
科目	予算	決算	備考
2018年度繰越金	972,119	972,119	
個人会員年会費	350,000	315,000	延べ315人(15年1件、16年7件、17年22件、18年61件、19年200件、20年16件、21年以降8件)
団体会員年会費	140,000	140,000	1口5000円、なるべ2口以上、延べ17団体 2019年度15件、'20年度2件)
寄付	10,000	18,000	6件
利息	10	7	
計	1,472,129	1,445,126	
※個人会員381名 団体会員数18団体 2020.3.31現在)			
支出の部			(単位円)
科目	予算	決算	備考
印刷代	330,000	321,802	ニュースレター 2回)、ビジュアルパンフレット(2000部)、リーフレット(500部)、資料コピー
送料	150,000	156,609	ニュースレター発送、資料 パンフレット等の発送代
事務用品	10,000	290	包装材
活動費	110,000	90,000	学習交流会補助 (10,000円×9都県)
HP ML管理費	40,000	51,129	HP移設、HP更新、デザイン料、ML移行、ML管理
会議費	10,000	0	
イベント運営費	250,000	97,669	総会・シンポジウムにおける謝礼等
アルバイト謝金	105,000	105,115	会計、会費管理、名簿管理等
学会事務所使用料	20,000	20,000	資料等の保管
予備費	447,129	3,000	事務所棚整理お礼
小計	1,472,129	845,614	
2019年度繰越金 (残高)		599,512	
計	1,472,129	1,445,126	
監査の結果相違ありません			
2020年5月31日			
会計監査 藤木 勝			(印)
会計監査 伊深祥子			(印)

【審議事項】

I 2020年度活動方針（2020.4.1～2021.3.31）

1 生活やものづくりに必要な学びの意義について広く討論をすすめる

- ① 学校や教育課程の在り方を含めて、生活やものづくりの学びについて、意見交換や学習会等を開く。
- ② マスメディアなどを通して活動を広報する。

2 生活やものづくりのための授業・実践活動を充実させ、交流する。

- ① 各県の授業・実践活動を中心とした学習交流会を開催する。
- ② 授業・実践活動交流会は、保護者や地域の人々の協力を得るように努める。
- ③ 授業・実践活動交流会などの小集会には、補助金 1 万円を支給する。

3 啓発・宣伝および会員の拡大をする

- ① 学習指導要領の改訂や新しい教育動向を反映させた新版のビジュアルパンフレット（2019 年 4 月版）等を活用し、生活やものづくりの学びの意義を広くアピールするとともに、勧誘（改訂版）リーフレットを用いて会員を増やす。
- ② HP を充実させ、本ネットワークの意義と活動を知らせていく。

4 会員相互の交流を活発に行う

- ① ニュースレターを年 1・2 回発行する。
- ② メーリングリストや HP を活用し、会員相互の活発な情報交換の場とする。

5 ロビー活動を行う

- ① 世話人会と事務局はロビー活動を推進する。
中央教育審議会委員や関係部署に、家庭科、技術・家庭科の充実に関する要望書を送付する。
- ② 各実行委員・会員は、ロビー活動を行い、状況を把握し、会員に情報を伝達する。

Ⅱ 2020年度予算案

(2020.4.1~2021.3.31)

生活やものづくりの学びネットワーク 2020年度予算案 2020.4.1~2021.3.31)			
収入			単位円)
科目	決算 2019)	予算 2020)	備考
前年度繰越	972,119	599,512	
個人年会費	315,000	300,000	1口1000円× 延べ300人)
団体年会費	140,000	120,000	1口5000円、なるべぐ口以上 延べ18団体)
寄付	18,000	10,000	
雑収入	0	0	
利息	7	5	
合計	1,445,126	1,029,517	
支出			単位円)
科目	決算 2019)	予算 2020)	備考
印刷代	321,802	100,000	ニュース (2回発行)、資料コピー
送料	156,609	150,000	ニュース、資料等の発送代
事務用品	290	10,000	封筒、ラベル
活動費	90,000	90,000	ロビー活動、小集会 学習交流会補助 (10,000円×8都道府県)
HP ML管理費	51,129	30,000	HP更新、ドメイン・メールサーバー使用料
会議費	0	10,000	世話人会 実行委員会の会議費
イベント運営費	97,669	150,000	講演料、会場費等
事務局人件費	105,115	105,000	会計、名簿管理、発送作業等
学会事務所使用料	20,000	20,000	資料等の保管
予備費	3,000	364,517	
次年度繰越金	599,512	0	
合計	1,445,126	1,029,517	

Ⅲ 2020年度 運営体制

～9月

◎世話人代表 ○世話人副代表

世話人	◎赤塚朋子（日本家庭科教育学会） ○河野公子（全国家庭科教育協会） ○沼口 博（産業教育研究連盟） 知識明子（家庭科教育研究者連盟） 堀内かおる（（一社）日本家政学会） 志村結美（（一社）日本家政学会家政教育部会） 小野由美子（日本消費者教育学会） 阿部睦子（日本家庭科教育学会関東地区会） 渡瀬典子（（一社）日本家政学会生活経営学部会） 新井映子（（一社）日本調理科学会） 中山節子（日本家庭科教育学会）
会計監査	伊深祥子 藤木勝
実行委員	各県、正・副2名を基本とする
事務局	浅井直美 小谷教子 坪内恭子 渡邊彩子

9月～

世話人	◎赤塚朋子（日本家庭科教育学会） ○石井克枝（全国家庭科教育協会） ○（ ）（産業教育研究連盟） 知識明子（家庭科教育研究者連盟） 薩本弥生（（一社）日本家政学会） 志村結美（（一社）日本家政学会家政教育部会） 小野由美子（日本消費者教育学会） 仲田郁子（日本家庭科教育学会関東地区会） （ ）（（一社）日本家政学会生活経営学部会） 新井映子（（一社）日本調理科学会） 中山節子（日本家庭科教育学会）
会計監査	上村協子 大塚有里
実行委員	各県、正・副2名を基本とする
事務局	浅井直美 小谷教子 坪内恭子 渡邊彩子

総会につきましては、今号の掲載をもって書面審議とさせていただきます。ご意見等がありましたら、8月31日までに事務局にメールをお願いします。ご意見がない場合はご承認いただいたものとみなします。よろしく願いいたします。
なお、役員一覧の空欄は、各団体の役員交代時期がこれからのため、ご了承ください。

会員継続のお願い

★近年、長きにわたり本ネットワークを支えていただいた方々のご退職を期に退会されております。会員の皆様のこれまでのご尽力に深く感謝いたします。

平成31年4月17日、中央教育審議会から「新しい時代の初等中等教育の在り方について」の諮問がなされ、教育課程に対する新たな議論が始まっています。本ネットワークとしても、審議の経過を注視し今後さらなる授業時数確保に向けて活動を継続していかねばなりません。生活やものづくりの重要性を広めるために、実質的な活動は休止されることになって引き続き会員として留まり、ネットワークの活動を支援していただけるとありがたいと思います。

新規会員のご紹介を

★生活やものづくりに基づいた教育の必要性の声を高めるために、皆様に会員を一人でも増やしていただく必要があります。ネットワークを周りの方や研究会のメンバー、教員、学生、保護者、一般の方に紹介し入会をお勧めくださるようお願いいたします。

入会届やリーフレット・パンフレット等はホームページからダウンロードできます。

世話人代表 赤塚朋子

事務局からのお知らせ

1. 年会費の納入をお願いします

2020年度の請求を宛名用紙の裏面に記載しております。9月30日までに納入お願いいたします。

2. 新しいメーリングリスト (ML) に移行しました。添付ファイルも付けられます

昨年末に、freemlのMLサービスからXREA by GMOによるMLサービスに変わりました。

配信停止になっていた方やこれまで登録していなかった方は、事務局まで、メールアドレスをお知らせください。MLを活用して、迅速な情報配信をしたいと考えております。多くの皆様の登録をお願いいたします。

また、これまで、添付ファイルがつけられないなど配信の容量を厳しく制限する状態でしたが、現在のサービスでは、添付ファイルをつけられる設定にしました。研究会の案内などで、チラシの添付ができるようになりましたので、ご活用ください。

新しいMLアドレス：seikatsunetmail-ml.seikatsunet.com@ml.seikatsunet.com

3. 新版ビジュアルパンフレット (2019年4月版) を活用ください

新版ビジュアルパンフレットは、新学習指導要領への対応及び資料を更新するなど大幅な改定を行い、内容を充実させました。

家庭科、技術・家庭科の学びの重要性を理解していただく資料として、すでに大学の授業や研究会、情宣活動等に活用いただいております。

パンフレットがご入用な方は事務局までご連絡ください。

・パンフレット代：無償

・送料：会員拡大用に使用する際は無料。

大学等の授業で31部以上は着払で有料 (ただし30部までは無料)。

なお、HPにパンフレットのデータが掲載されています。ご自由に印刷してお使いください。

4. ニュースレター送付先住所の変更について

勤務先の異動、引っ越し等でニュースレター送付先住所が変更になった場合はお早めに事務局までご連絡ください。なお、送付先は、原則自宅住所でお願いします。

5. 退会届の提出について

退会される場合は「退会届」の提出をお願いしております。ホームページに「退会届」の書式が掲載されておりますので、ご記入の上、メール添付が事務局への郵送でご提出ください。なお、年度ごとの退会となりますので、年会費をお納めの上退会をお願いします。

事務局メールアドレス：seikatsu_nt@yahoo.co.jp
ホームページ URL：http://seikatsunet.g3.xrea.com/

生活やものづくりの学びネットワーク

公開フォーラム

「新しい生活様式」を意識した授業づくり

—コロナ禍の中の子どもと学校—

2020年9月27日(日) 10:00~12:00

Zoomによる遠隔開催 ※参加費無料

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、学校ではこれまでにない対応が求められています。小、中、高校の家庭科、技術・家庭科においても、感染防止に配慮した授業が模索されています。

子どもの生活実態や、学校の困難な状況を踏まえた話題提供の後、グループワークを通してお互いの経験や工夫を共有しながら「新しい生活様式」を意識した授業づくりについて考えます。

●話題提供者

お茶の水女子大学附属中学校	有友愛子氏
奈良教育大学附属中学校	中嶋たや氏
麻布学園 麻布中学校・麻布高等学校	小山田祐太氏

●司会・進行 東京家政学院大学 小野由美子氏



参加を希望される方は9月18日(金)までに事務局のWebサイトに掲載のフォーム

<https://forms.gle/JGtr4PhCveWRvNCT8>

あるいは、左記のQRコードからお申し込み下さい。
参加方法を折り返しご案内します。

生活やものづくりの学びネットワーク事務局

〒112-0012 東京都文京区大塚4-39-11 仲町YTビル3F

日本家庭科教育学会事務局気付

E-mail: seikatsu_nt@yahoo.co.jp

Webサイト: <http://seikatsunet.g3.xrea.com/>